

プリウスカップ 第34回山口県少年サッカー選手権大会実施要項

1. 趣 旨 将来を担う子どもたちのサッカーへの興味関心を高め、サッカーの技術・理解を向上させるとともに、サッカー競技を通じて身体を鍛え、フェアプレーの精神を培い、正しく力強く生きることを願って開催する。
2. 名 称 プリウスカップ 第34回山口県少年サッカー選手権大会
3. 主 催 (一社)山口県サッカー協会 KRY山口放送
4. 主 管 (一社)山口県サッカー協会第4種委員会
5. 後 援 山口県 防府市教育委員会 山口市教育委員会 読売新聞西部本社
6. 特別協賛 トヨタカローラ山口 山口トヨペット
7. 日程・会場
令和3年6月13日(日)、6月19日(土)、6月20日(日)
○6月13日(日)きらら博記念公園サッカー・ラグビー場、スポーツ広場
受 付 8:50~9:20
選 手 集 合 試合開始時刻に合わせて集合する
開 会 式 実施しない
キックオフ 9:30~ 試合終了後解散
○6月19日(土)防府市陸上競技場
キックオフ 10:00~ 試合終了後解散
○6月20日(日)防府市陸上競技場
準 決 勝 9:30、10:30
3位決定戦 12:30
決 勝 戦 14:00
決勝戦終了後閉会式、解散
8. 参加資格
 - (1) 「参加チーム」は、令和3年度(公財)日本サッカー協会及び(一社)山口県サッカー協会第4種に加盟登録した団体(チーム)であること。
 - (2) 上記参加チームの構成は、単一「加盟チーム」に限られ、その「加盟チーム」は、年間を通じて継続的に活動していること。
 - (3) 「参加選手」は、上記「加盟チーム」に5月17日(月)までに登録された選手であり、(公財)日本サッカー協会の発行した「加盟チーム」の選手証(写真貼付されたもの)または、登録選手一覧を出力した用紙を持参すること。
 - (4) 山口県各ブロック大会から山口県少年サッカー選手権大会に至るまでに、同一「参加選手」が異なる「加盟チーム」への移籍後、再び参加することはできない。
 - (5) 「参加チーム」及び「参加選手」は、各ブロック大会で出場資格を得たチーム・選手とする。当該チームの山口県大会への登録選手が16名に満たない場合は、「加盟チーム」内の選手から上記(3)、(4)を満たしている場合、補充することができる。
 - (6) 引率指導者は、「参加チーム」を掌握指導する責任ある指導者であること。また、内1名以上が(公財)日本サッカー協会公認コーチ資格(D級コーチ以上)を有すること。
 - (7) スポーツ安全協会傷害保険または、それに相当する保険に加入している者。

(8) 選手は健康であり、保護者の同意のあった選手に限る。

9. 参加チームとその数

(1) 参加チームは、8ブロック代表32チームとする。

(2) 各ブロックの委員が、取りまとめを行う。

ブロック名	チーム所在地	出場数	委員
周東	岩国市、柳井市、大島郡、玖珂郡、熊毛郡	4チーム	岡村
周南	光市、下松市、周南市	4チーム	大浜
防府	防府市、徳地	3チーム	馬場
山口	山口市	5チーム	加藤
宇部	宇部市、山陽小野田市	6チーム	兼重
下関	下関市	7チーム	竹中
長門	長門市、美祢市	1チーム	田中
萩	萩市、阿武郡	2チーム	石川

10. 大会形式

(1) トーナメント方式とする。13日、19日は、1人審判とし、20日は、3人審判とする。

(2) 競技時間は40分(前・後半20分)とし、10分のインターバルをとる。

(3) 勝敗の決定しないときは10分延長とし、なお、決定しないときはPK方式により決定する。

11. 競技規則

(1)実施年度の(公財)日本サッカー協会「サッカー競技規則」および「8人制サッカー競技規則」による。

12. 競技会規則

以下の項目については本大会の規則を定める。

(1) 競技のフィールド

フィールドの表面は、原則、天然芝か人工芝とする。

サイズは以下の通りとする

フィールドの大きさ:	長さ(タッチライン)68m×幅(ゴールライン)50m
ペナルティエリア:	12m
ペナルティマーク:	8m
ペナルティアーカの半径:	7m
ゴールエリア:	4m
センターサークルの半径:	7m
交代ゾーン:	6m

(2) ボール

試合球は4号球とする。準々決勝までは、各チーム持ち寄りの4号級とする。

(3) 競技者の数

① 1チーム8人の競技者によって行われる。チームの競技者のうち1人はゴールキーパーとする。

② 登録できる交代要員および交代の最大人数は8名とし、交代して退いた競技者は交代要員となり、再び出場することができる。交代の回数は制限されない。

③ 本大会においては、8人に満たない場合は試合を開始しない。得点を0対3として敗戦したものとみなす。ただし、新型コロナウイルスの影響により8名に満たない場合、7～6名の場合は当該チームの意向を確認の上で実施可否を判断する。6名に満たない場合は当該試合を中止する。一方のチームが8名に満たない場

合両チーム同数とする。

- ⑤ 試合は常に 8 人対 8 人で行うこととする。怪我等でピッチ外に出る場合は、必ず補充してから試合を始める。試合中に怪我等により交代要員がいなくなり 8 人に満たなくなった場合は、そのまま続行する。

(4) ベンチ入りする役員の数

- ① テクニカルエリア(ベンチ)に入ることができる人数は、交代要員 8 名、引率指導者 2 名以上 3 名以下とする。
② その都度ただ 1 人の引率指導者のみが戦略的指示等を伝えることができる。

(5) 審判員

第 1 日目及び第 2 日目については 1 人の主審と補助審判が指名される。第 3 日目については 1 人の主審と 2 人の副審と第 4 の審判員が指名される。+

(6) テクニカルエリア

設置する。

(7) 競技者の用具・ユニフォーム

- ① 本協会のユニフォーム規程に基づいたユニフォームを使用しなければならない。
② 正規のユニフォームのほかに、これと異なる色の予備のユニフォームを用意すること。
③ ユニフォームは、参加申込書に登録されたものを着用し、胸番号及び背番号をつける。
④ 本競技会に登録した正・副 2 組のユニフォーム(シャツ、ショーツ及びソックス)を試合会場に持参し、いずれかを着用しなければならない。
⑤ 正・副の 2 色については明確に異なる色とする。
⑥ チームのユニフォーム(ゴールキーパーのユニフォームを含む)のうちシャツの色彩は、審判員が通常着用する黒色と明確に判別し得るものでなければならない。
⑦ 胸番号及び背番号は、整数の 1 から 99 までを使用し、0 は認めない。また、背番号は、服地と明確に区別しうる色彩(服地が縞柄の場合には台紙を付ける)であり、かつ判別が容易なサイズのものでなければならない。(予備のユニフォームも同様である。)
⑧ ユニフォームの広告が承認されたものは、本大会での着用を認める。(広告内容によっては、認めないこともある。)
⑨ 審判員は、対戦するチームのユニフォームの色彩が類似しており判別しがたいと判断したときは、両チームの立ち会いのもとに、その試合において着用するユニフォームを決定する。
⑩ 前項の場合、審判員は、両チームの各 2 組のユニフォームのうちから、シャツ、ショーツ及びソックスのそれぞれについて、判別しやすい組み合わせを決定することができる。
⑪ ユニフォームのデザイン、ロゴが異なっても、本競技会主催者が認める場合、主たる色が同系色であれば着用することができる。
⑫ ソックスにテープまたはその他の材質のものを貼り付ける、または外部に着用する場合、ソックスと同色でなくても良い。
⑬ アンダーシャツの色は問わない。ただし原則としてチーム内で同色のものを着用する。
⑭ アンダーショーツおよびタイツの色は問わない。ただし原則としてチーム内で同色のものを着用する。
⑮ Jクラブアカデミーのチームについては、公益社団法人日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)のユニフォーム要項に認められたユニフォームであれば使用を認められる。ただし一部でも仕様が異なる場合は認められない。ユニフォームへの広告表示については本号⑳に準じる。
⑯ シャツの前面・背面に参加申込の際に登録した選手番号を付けること。ショーツの選手番号についてはつけることが望ましい。
⑰ 選手番号については、参加選手ごとに大会に登録されたものを使用する。

⑩ 背番号については以下のとおりとする。

・選手番号は、服地と明確に区別し得る色彩(服地が縞柄の場合には台紙を付ける)であり、かつ判別が容易なサイズのものでなければならない。

・選手番号を付ける場所およびサイズは、次の通りとする。

シャツ背中 高さ 25～35cm

シャツ前面 右側、左側または中央に、高さ 10～15cm

ショーツに選手番号を表示する場合は、前面の右側または左側に、高さ 10～15cm

・番号は整数の 1 から 99 を使用し、0 は認めない。

⑪ ユニフォームの色、選手番号の参加申込締切日以後の変更は認めない。

⑫ ユニフォームへの広告表示については、日本サッカー協会 第 4 種大会部会が別途定める規定に基づくものでなければならない。2021 年 6 月 18 日(金)までに日本サッカー協会に承認された場合にのみ認められる。

※ 日本サッカー協会ユニフォーム規程第 10 条において適用除外を受けた日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)に所属するクラブの下部組織のチームは、当該クラブのトップチームと同一のユニフォーム広告を掲示することが認められる。但し、アルコール等、未成年チームにふさわしくない広告については除外する。

(8) 試合時間

① すべて前・後半とも 20 分間とし、ハーフタイムのインターバルは 10 分とする。

② 規定の試合時間内に勝敗が決しない場合は、ペナルティーマークからのキックにより勝者となるチームを決定する。決勝戦は、前・後半 5 分ずつの延長戦を行い、なお決しない場合はペナルティーマークからのキックにより勝者となるチームを決定する。なお、延長戦に入る前のインターバルは 5 分、ペナルティーマークからのキックに入るまでのインターバルは 1 分とする。

③ 暑熱下において、前・後半中程に飲水タイムを採用する。その他、暑熱対策については、JFA 暑熱対策ガイドラインに従う。

(9) 交代の手続き

① 交代して退く競技者は、交代ゾーンからフィールドの外に出る。ただし、交代して退くゴールキーパーは、境界線の最も近い地点からフィールドの外に出なければならない。

② 交代要員は、交代ゾーンからフィールドに入り、競技者となる。

③ 交代は、ボールがインプレー中、アウトオブプレー中にかかわらず行うことができる。

④(注)ただし、交代で退く競技者が負傷している場合は、主審の承認を得た上でどこからフィールドを離れてもよい。交代について、主審、補助審判の承認を得る必要はない。

⑤ゴールキーパーは、事前に主審に通知した上で、試合の停止中に入れ替わることができる。

(10) 試合の勝者を決定する方法

① PK 方式において、両チーム 3 人ずつの競技者がキックを行ったのち、両チームの得点と同じ場合は、同数のキックで一方のチームが他方より多く得点するまで交互に順序を変えることなくキックは続けられる。

② ペナルティーマークからのキックの進行中に、ゴールキーパーが負傷してゴールキーパーとしてのプレーが続けられなくなったとき、氏名を届けられている交代要員と交代することができる。

③ 上記の例外を除いて、延長戦のある場合はそれを含めて、試合終了時にフィールドにいた競技者にのみペナルティーマークからのキックを行う資格が与えられる。

④ 資格のある競技者は、ペナルティーマークからのキックの進行中に、いつでもゴールキーパーと入れ替わることができる。その時のユニフォームはそのままよい。

⑤ 試合が終了し、ペナルティーマークからのキックを行う前に、一方のチームの競技者が相手チームより多い場合、競技者のより多いチームは相手競技者数と等しくなるように競技者数を減らさなければならない。チー

16. 組合せ抽選

令和3年5月18日(火)協会事務局で行い、決定後、関係チームへ連絡する。

17. その他

- (1) 大会中の選手の傷害事故については、関係チームで処置すること。
- (2) 参加についての費用は自費とする。
- (3) 13日、19日の審判員は、参加チームの帯同審判員(有資格者)による。審判員は、審判証の確認を行うので審判証を持参すること。
- (4) 開・閉会式には、各チームのユニフォームを着用し参加すること。(コロナ禍により開会式は実施しない。閉会式は、最終日の出場チームのみ参加する。)
- (5) 選手と引率指導者のうち1名(以下「代表指導者」とする)の資格確認を行う。試合当日は、必ず「選手証」及び「公認指導者ライセンス認定証」を持参すること。選手証不携帯および、写真が貼付されていない選手は、当該試合への出場は認めない。また、代表指導者のライセンス証不携帯及び写真が貼付されていない場合は、そのチームの当該試合への出場は認められない。
- (6) 1位～3位のチームは、本年度の中国大会(鳥取県:7月22日～24日)へ山口県代表として出場する権利と義務を負う。
- (7) 大会要項に規定されていない事項については、第4種委員会において協議のうえ、決定する。

18. 大会の中止について

以下の場合、大会前、大会中にかかわらず中止になる可能性がある。

- (1) 政府から、全国または山口県に緊急事態宣言が発出された場合
- (2) 山口県知事から、イベント(大会)自粛要請、その他大会中止に関わる要請がでた場合

※ すべての最終判断は、山口県サッカー協会・保健所・山口県、関係各所と相談の上、安全第一を基本に大会本部が決定する。

連絡・問合せ先

(一社)山口県サッカー協会第4委員会

副委員長 岡野富司雄 携帯 090-7979-4467

事業総括

(一社)山口県サッカー協会4種委員会

委員長 水上 哲彦 携帯 090-8996-5256